

はじめに

日頃より、本県の乳幼児期における教育及び保育の振興にご尽力いただいておりますことに、深く感謝申し上げます。「乳幼児の育ちと学び支援センター」では、令和3年4月の設置以来、施設類型を問わず保育者を対象とした研修会の開催や、保幼小連携の推進、幼児教育アドバイザー等による訪問支援など、様々な取組を進めて参りました。

人口減少や少子高齢化の加速、グローバル化の進展など、社会が大きく変化する中で、予測困難な時代を生きる子どもたちには「生きる力」を育むことが重要視されています。特に、人格形成の基礎を培う重要な時期である乳幼児期においては、一人ひとりに応じた、遊びを中心とした総合的な指導を通して、主体的・対話的で深い学びを実現する幼児教育・保育の質の向上が求められています。このような時代の要請に応えるため、本センターでは、皆様からのご意見を踏まえ、現場のニーズや課題に応じた「学びの実感を伴う研修」をめざし、企画・改善に取り組んでいるところです。

さて、幼児教育・保育の質の向上に向けた取組は多岐にわたりますが、園独自の課題に対応した「園内研修」は、実践的な研修として欠かすことのできない重要な取組です。

そこで、本センターでは、園内研修の一層の充実を図るため、本手引きを作成いたしました。これまで、県内の園からは、「園内研修はどのような流れで進めればよいのか。」「課題を解決するためにはどんな手法があるのか。」「研修時間が十分に確保できない場合はどうしたらよいのか。」等の多くの悩みや相談が寄せられてきました。本手引きでは、こうした声に応じて、園内研修の意義や進め方、課題に応じた多様な手法などをまとめております。園内研修を企画・実施する際の参考としてご活用いただければ幸いです。

なお、本センターのアドバイザー等が園を訪問し、園内研修の実施を支援することも可能です。どうぞお気軽にご相談ください。

皆様方におかれましては、今後とも本県の乳幼児期における教育及び保育の充実に向け、引き続きご支援・ご協力を賜りますようお願いいたします。

最後になりましたが、本手引きの作成にあたり、貴重な事例をご提供頂きました関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。

令和8年3月

山口県乳幼児の育ちと学び支援センター
所長 田中 マキ子

Contents

はじめに

園内研修の意義

園内研修の必要性	1
1 園内研修とは？	
(1) 保育者の学びの場	2
(2) 園全体で育ち合う風土づくり	2
2 有意義な園内研修にするには？	
(1) 園内研修のポイント	3
(2) 一人ひとりが研修の主体	4
(3) それぞれの立場を生かして	5
(4) 学びをつなぐファシリテーター	6
column ファシリテーターの役割をチェックしよう	7
3 どうやって研修を進めるの？	
園内研修スタートナビ	8
(1) 研修テーマの決定	9
(2) 研修計画の立案	10
(3) 研修の実施	11
(4) 研修成果の活用	14
column 小学校とのつながりを学ぼう	15

やってみよう！ 園内研修

1 どんな手法があるの？	16
2 研修手法例	
(1) マインドマップ	17
(2) リフレーミング	19
(3) フォトラーニング	21
(4) ラベルワーク	23
(5) KPT 法	25
(6) エピソード検討	27
(7) 園内公開保育	29

園内研修実践事例

(1) ちょこっと園内研修 ～お昼寝時間を利用して～	31
(2) 環境構成を園全体で共有しよう ～マップ作成を活用して～	33
(3) 保育を振り返ろう ～ドキュメンテーション作成～	35
(4) 保護者対応について考える ～ラベルワークを用いて～	37
(5) 子どもの主体性を求めて ～「主体的な保育」について園全体で考えよう～	39

【巻末資料】 すぐ使える研修シート

★ 園内研修テーマ検討シート	41
★ リフレーミングシート	42
★ フォトラーニングシート	44
★ エピソード記録シート	45
★ 保育カンファレンスシート	46
★ ドキュメンテーションシート	47